「21・ろうふく」め～る

一灯苑（川岳福祉会）の施設運営・事業再開のため、9月末まで「第2次支援カンパ」を呼びかけます。

川岳福祉会の光永理事長は、一灯苑では近隣住民の避難所として対応しつつ、入居者の早期帰苑をめざし行政と対応されています。また、保育園は浸水により、建物や機器も使用できませんが、保護者や園児の声を受け止め、保育園の移転による再開を検討しています。事業の再開には時間と資金を要します。行政との調整を行いつつ一日も早い復旧を願っています。

九州豪雨被災支援カンパ
熊本・川岳福祉会＆福岡・くろさき苑に届けました

7月6日、緊急の支援カンパをお願いしたところ、会員施設並びに有志、個人の方々から多額のカンパが寄せられました。本当にありがとうございました。

熊本の社会福祉法人　川岳福祉会は、写真、新聞記事のとおり甚大な被害です。特養ホーム一灯苑は建物への直接的な被害はありませんが、橋の流失による道路の遮断、今も断水が続き入居者が戻れない状況です。また、同法人内の保育所は浸水し、保育園の移転が必要と言われています。職員も自宅が全壊・浸水、通信機器（携帯電話等）の破損等で日常生活に支障が続いています。よって、支援カンパは、職員への見舞金・激励金としても使っていただくようにお願いしました。

しんぶん　赤　旗　　（第3種郵便物認可）

福祉職員「前向く」

熊本豪雨 八代市坂本町

九州豪雨によって熊本県八代市坂本町は多くの集落が球磨川の濁流にのまれました。同町にある社会福祉法人「川岳福祉会」が運営する特別養護老人ホーム、認可保育園、障害者の就労支援事業所も甚大な被害をうけました。理事長で特養苑長・光永内さん（66）は「利用者さん、園児たちのためにも前を向くしかない」と運営継続のための復旧作業にあたっています。（宮川草子）

同法人の特別養護老人ホーム「坂本の里一灯苑」は4日夜から氾濫した球磨川によって「ライフラインが寸断、川沿いを走るJR肥薩線の鉄橋は落ち、道路は分断。職員と46人の利用者らは3日間、施設内で孤立しました。エアコンが使えず蒸し暑さのなかでも不眠不休の介護。光永さんは「休憩不良を訴える職員が相次ぎました」と語ります。

5日、施設の上を走る高速道路まで登り全員が脱出。別の法人の施設や病院へ移りましたが「子ども手いっぱい。順次、法人内の空き施設に全員を移す予定ですが一職員へ介護用品、食料、あらゆるものが足りない」状況です。

屋根の上まで約50人の児童が通う「川岳保育園」は4日夜、屋根の上まで水没。「絶対

孤立した特別養護老人ホーム「坂本の里一灯苑」で救出を待つ入所者ら＝6日、熊本県八代市坂本町（光永さん提供）

不眠不休の介護■園児保護者の声 涙

流されてきた大量のがれきにうずまる就労支援事業所「わいわい虹の村」前＝5日、熊本県八代市坂本町（光永さん提供）

支援カンパの振込口座

関西みらい銀行　千里山田支店　普通　５８２００３

（名義）21 世紀・老人福祉の向上をめざす施設連絡会

▼**かわたけ保育園は、**球磨川の近くにあります。写真（中）の保育園の建物の奥が球磨川で、豪雨による川の決壊で泥水や流木等が建物に入り込み、ホール、調理器具等は全壊で、保育園の復旧は困難とのことです。現在、移転を検討されています。

▲**1面の写真は、**21・老福連からの緊急支援物資を受け取られた光永理事長と職員さんです。下の写真は、一灯苑近くの深水橋（長さ154．9メートル）が流失。

保育園の建物内外に泥が入り、現地での保育再開は無理とのことです。現在、移転先を探しておられます。